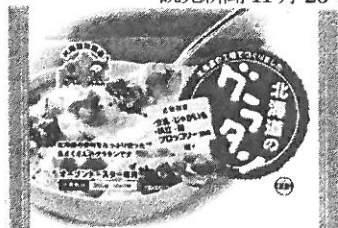


「冷凍グラタンに金属片混入か」

ホクレンが自主回収・16万袋

ホクレン農業協同組合連合会と北海道漁業協同組合連合会（ぎょれん）は11月26日、全国の生協やスーパーで販売されている冷凍食品「北海道のグラタン」に金属片が混入した恐れがあるとして自主回収を始めた。対象は流通分の全量にあたる16万5500袋となる。健康被害などの情報は寄せられてはいないという。商品はホクレンとぎょれんが共同で開発し、販売している。10月29日、道内の製造工場で長さ3ミリ、幅1ミリの金属片が混入した商品が見つかった。調査したところ、原料のサケを加工する工場で使うカッターの破片であることが判明し、再発防止策として工場の機器や原料の検査を強化している。

読売新聞 11月26日配信



「クモノスカビ汚染で回収」

米健康食品・厚労省が注意喚起

厚労省によると、乳幼児や子供向けの健康食品「ABC ドフィルスパウダー」について、メーカーが回収を進めており、摂取を控えるよう米食品医薬品局が注意喚起している。呼吸困難などを引き起こし重症化すると死亡する感染症「ムコール症」の原因となるクモノスカビに汚染された製品があり、米国で10月に病院で治療中に摂取した8カ月未満の乳児が死亡したという。日本国内では業としての輸入実績はないが、インターネットを通じて個人輸入しているケースも考えられるため、注意を呼びかけている。

毎日新聞 11月20日配信

「黒糖にカビ発生のおそれ」

三菱食品が自主回収・18万袋

三菱食品は11月13日、全国で販売した「沖縄産原料 100%黒糖（加工黒糖）ブロックタイプ」でカビが発生している恐れがあるとして、約18万6000袋を自主回収すると発表した。同社によると健康被害の報告はないという。回収対象は賞味期限が来年9月までの商品で製造者は「津梁（しんりょう）」となっている。生産過程で乾燥が不十分だった可能性があるという。11月13日までに購入者から「カビが生えている」などといった指摘が5件寄せられ発覚した。

読売新聞 11月13日配信

ノロウイルス・感染予防対策の周知徹底を

厚労省が
都道府県などに通知

ノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生が相次いでいることを受け、厚労省は都道府県と保健所設置市、特別区に対し、ノロウイルスの感染予防対策の周知徹底を求める通知を出した。同省は「この時期に発生する感染性胃腸炎のうち、特に集団発生例の多くはノロウイルスによるもの」と推測。感染性胃腸炎と食中毒発生動向に注意が必要としている。10月以降、ノロウイルスが原因とみられる感染性胃腸炎の集団発生が続発している。11月中旬には花巻市の保育所、福岡市の児童福祉施設でそれぞれ感染性胃腸炎の集団発生が起きている。千葉県市原市の小学校で40人以上の生徒に嘔吐や下痢などの症状があり、このうち7人の便からノロウイルスを検出した。こうした集団発生につながる二次感染を防ぐため厚労省は都道府県などに、手洗いの徹底や、便・嘔吐物の適切な処理を行うよう求めている。

医療介護CBニュースより

感染性胃腸炎
首都圏で感染拡大

ノロウイルスなどの感染に伴って嘔吐や下痢といった症状を伴う「感染性胃腸炎」の患者報告数が首都圏で急増している。先月17日から23日までの週の小児科定点医療機関からの報告数は、東京都と埼玉、千葉、神奈川の3県で前週に比べて軒並み増加。2週間連続で増えた東京都では中央区保健所管内で警報基準値を超過した。埼玉県も1保健所管内で前週を上回ったとして警戒を強めている。保健所別で最も多かった中央区では警報基準値20人を超す21人を記録。東京都に隣接する埼玉や千葉、神奈川の3県でも感染が拡大している。千葉県は例年流行する時期となり集団発生事例も増加する。今後の状況に注意が必要とされている。感染性胃腸炎はほとんどがノロウイルスやロタウイルスなどが原因とされ、患者との接触に加え、嘔吐物や便を介して感染するため手洗いの励行、嘔吐物の適切な処理が求められている。

医療介護CBニュースより



県央かわら版

第24号

平成26年12月1日発行

発行所

一般社団法人県央研究所

第6回 イルミネーション！
コミュニケーション！

（12月1日開催しました）



見る：手作り資料

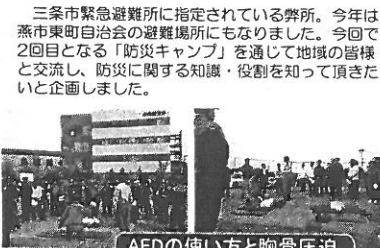


体験：吐瀉物の処理



聞く：講師・茨木理事

第1部の講演会では茨木理事の講演とともに職員のコミカルで解りやすいノロウイルス対処劇「野呂家にノロ大王がやってきた」を発表させていただきました。目で見、耳で聞いて、体で覚える講演会として、出席されたお客さまに体験いただき、例年とは一味違った講演会で好評を博しました。



AEDの使い方と胸骨圧迫

燕消防署様のご協力により自動体外式除動器（AED）の扱い方を学びました。



実演講習：浮いて待て

水難学会指導員である栗林一様より、水難時はあおむけで大きな字になり、水面に浮いて助けを待つ大切さを教わり、簡易プールで実演。ペットボトルやタイヤなどの浮力も試しました。救助を呼ぶために、水難にあっても携帯電話が壊れないよう防水の入れ物を備えることの話もありました。



防災クイズ



いざという時の便利グッズ

いざという時の為に、新聞紙で簡単に作れる簡易的なスリッパを作りました。



全国ラジオ体操連盟・ラジオ体操指導者である桜井カツ工様より、一体感あるラジオ体操を指導して頂きました。

第2回けんおう防災キャンプ実施
今回は「水難」にも取り組みました

昨年に引き続き、防災に関する知識・役割を知っていただくためと11月8日に「第2回けんおう防災キャンプ」を開催し、地域の方々にも参加いただき盛大に行われました。今回は「水難」にも取り組みました。今年度は「水難」にもスポットをあてて、水難学会指導員の栗林一様より、水難時は大の字で、おむけで浮いて助けを待つ「浮いて待て」を実技指導していただきました。タイヤやペットボトルなど様々な浮力を試し、いざという時の知識を教わりました。お話の中で、水難時の携帯電話の重要性について触れられ、防水性のある入れ物を備えることなども学びましたが、これは冬の雪害時にも使えるな・と再認識しました。



株式会社 県央研究所ではノロウイルス等に関する指導や見て・聞いて・体験する講演会を承っております。お気軽にお問い合わせください。

皆様からの情報・ご意見をお待ちしております。県央から版では、食品・環境等を中心に情報を発信しております。取り上げていたことも、一般的な話題等がありましたら、お気軽にご連絡ください。一般社団法人県央研究所 県央かわら版事務局

電話 0256(46)8311
FAX 0256(46)8310
Eメール info@kenoh-laboor.jp